

全国の支援者の皆様へ

活動のご報告

参議院議員 自見はなこ



2024年(R6年)5月16日

平素より温かいご理解とご指導を賜り誠に有難うございます。

* 超党派骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会の開催

4月24日に超党派骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会を開催し、前回総会で取りまとめた「骨髄バンク及び臍帯血バンクの支援等に関する決議」を踏まえた政府の対応及び令和6年度関連予算・献血に関する現状について、厚生労働省より説明いただきました。①公益のために寄附した者を対象として授与される「紺綬褒章」に係る公益団体として日本骨髄バンクと臍帯血バンクを認めるよう求めておりましたが、この度日本骨髄バンクが公益団体認定を受けました。②転居等により骨髄バンクのドナー登録者の住所が不明になることへの対応として、SMSでの連絡や献血者情報との連携により、住所不明ドナー10万人の内、約1万3000人の住所を特定することができました。新たな住所不明者を増やさないためにマイナンバーカードと連携ができるよう、関係省庁と予算確保やシステム開発について調整中とのことです。③現在の骨髄バンクのドナー登録では採血が必要なため、登録会場は採血が行える献血会場や保健所等に限定されています。若年層ドナーの更なる獲得を目的に、新たな登録方法として口腔粘膜等のぬぐい液（スワブ）による検体採取を採用すれば、医師の同行等を要さず簡単に登録することができます。スワブ検査及びオンラインでのドナー登録の導入に向けて実証実験事業を昨年度より行っており、本年度はイベント会場や学域等を対象とした検証が行われます。④骨髄バンク及び臍帯血バンクの活動が持続可能となる額の手数料となるよう診療報酬点数の引き上げも求めており、そちらは実現することができませんでしたが、引き続き本議連として求めて参ります。

さらに、ドナー候補となっても仕事の都合等を理由にコーディネートを辞退するドナー候補者が全体の3割程度いるため、ドナー提供のための入院等に取得する特別休暇として「ドナー休暇制度」の導入を企業へ呼びかけております。導入企業数は年々増加しておりますが、休暇取得率が把握できていないため、厚生労働省に「実態調査」をするよう本議連より要望いたしました。また歴史ある骨髄・さい帯血バンク議員連盟ですが、今回の総会において「骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟」へ名称を変更いたしました。献血推進活動にもより一層力を注ぎ、ドナー登録者や献血者数を増やしていく所存です。▶

超党派骨髄・さい帯血バンク議員連盟



内閣府特命担当大臣
参議院議員 自見はなこ
活動フोटレポート

※日付順

こちらのURL または QR コードより
自見はなこの活動の詳細がご覧いただけます。

<https://www.jimihanako.jp/news>



▲4月29日 パリのBIE本部でケルケンツェス事務局長と大阪・関西万博に向け、参加国のパビリオン運営に必要な情報提供体制を強化するとともに、関係者が一体となるよう広報を活性化することが重要である旨を意見交換。



▲5月1日 英国ビジネス・通商省でオフォード貿易担当閣外相と大阪・関西万博の開幕に向けて情報交換を密にすることを確認



▲5月1日 オックスフォード大学ウェルビーイングセンターとの意見交換

消費者及び食品安全担当大臣として
イギリス・フランスの食品ロス対策を視察
～「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」の見直しに向けて頑張ります～

日本でも食品ロス削減のため、
5月9日に第一回「食品寄附等に関する官民協議会」を開催しました。



英国視察 スーパー及びフードバンクでの様子

英国のスーパーにおいては、AI を活用した値引きシステム、売れ残り品の寄附及び近隣住民へのマッチングシステム販売、野菜、果物等の規格外品、余剰生産品の販売等の状況を視察。同社は、食品ロス削減を会社の使命として、マッチングアプリの開発をするスタートアップ企業に資金を提供、食品は人が食べることを第一として徹底して食品ロス削減に取り組んでいる様子について説明を受けました。また、英国の2大フードバンクの一つフェアシェア傘下のフィリックスプロジェクトの視察し、1日に4000食もの食事をボランティアで提供する施設のほか、余剰食品や規格外野菜など、様々な食品を、マッチングシステムを活用して寄附する現場や、冷凍倉庫や冷蔵倉庫が完備され、大量の生鮮食品を扱う能力を有する施設も視察しました。



フランス視察 スーパー及びフードバンクでの様子

オーシャン（大手スーパー）では、AI を活用した値引きシステムによる食品ロスの削減状況を視察。DX を活用した値引き販売によって商品を売り切ることにより、大幅な食品ロス削減が実現。バンクアリマンテル（最大手フードバンク）では、日本の10倍に及ぶ食品寄附の収集及び運営費の確保の状況について視察。日本と異なり冷蔵、冷凍品の取扱いが多くある。DX を活用したマッチングシステムを政府が構築。